わかる喜び　できる楽しさ　学び続けるやまぐちっ子 ～ 高めよう授業力　育てよう学習力～

やまぐちっ子学力向上だより

第 8 0 号　H28.12.8
山口県教育庁義務教育課

各種調査を活用した学力向上の取組は進んでいますか

～　各学校における年２回の検証改善サイクルを実効性ある取組にしていきましょう　～

10 月 26 日（水）を基準日として実施した「山口県学力定着状況確認問題」については、現在、入力していただいたデータ集計が完了し、分析支援ツールを活用して各種成績票を出力することができるようになりました。県全体の詳細な分析結果については、12 月下旬の公表を予定しています。ただし、各学校はそれを待つことなく、児童生徒のために早い段階で自校の結果分析を行い、学力向上の取組を検証し、具体的な改善の動きにつなげていただきたいと考えています。４月の全国学力・学習状況調査と同様、児童生徒の解答状況だけでなく、提供された問題も含めて、今回の山口県学力定着状況確認問題を最大限に活用しましょう。

全国学力・学習状況調査の結果公表後にお届けした「やまぐちっ子学力向上だより」第 78 号では、「校内研修における工夫」「日々の授業改善の重要性」「補充的な学習の充実」に焦点をあて、各学校の実情に応じた具体的な取組を、全校体制で徹底して進めていくことをお願いしました。
今回はこれらの中から「日々の授業改善の重要性」「補充的な学習の充実」を取り上げ、今後学校の取組を見直す際の手がかりや、活用が期待される義務教育課作成の各種資料について紹介します。

日々の授業改善の重要性

山口県学力定着状況確認問題を含め、各種調査の結果を見ると、習得した知識や技能を活用して考察する力などに継続して課題が見られます。これらの力は、子どもたちが将来、よりよい人生とよりよい社会を築くために必要な資質・能力であり、普段の授業の積み重ねによって育まれるものです。求められる資質・能力を意識して日々の授業を改善していくことこそ、効果的な学力向上対策の一つです。
次期学習指導要領においては、「何を学ぶか」という指導内容の見直しはもちろん、「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」ということも見据えながら、授業改善の取組の更なる活性化が求められます。このような中で提案されているのが、「主体的・対話的で深い学び」の実現、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善です。
このたび義務教育課では、**平成 25 年７月配付の「授業づくりと評価の手引き　基礎編」の見直しを行い、改訂版を作成**しました。この中でも「主体的・対話的で深い学び」の実現、いわゆるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善について説明するページを設けていますのでご活用ください。

今回お届けしている「授業づくりと評価の手引き【改訂版】」の表紙です。

なお、授業改善の取組を進めるに当たっては、「授業づくりと評価の手引き（改訂版）」だけではなく、下の各種資料も活用してください。

〇授業改善に係る資料＜平成２８年３月作成＞･･･学校に配付・義務教育課Web 掲載

・「見通し」と「振り返り」の充実で学力向上を―計画的・組織的な授業改善の取組を―

・複数の教員で関わり 児童一人ひとりに確かな学力を―小学校における授業交換による教科担任制のすすめ―

・子どもたちの声 受け止めていますか―生徒による授業評価のすすめ―

・計画をもって授業に臨んでいますか―板書型指導案活用のすすめ―

・子どもたち一人ひとりに応じた支援を届けよう―学力分析支援ツールを活用したきめ細かな分析をもとに―

・子どもの学びをつなぐ小中連携―小中連携カリキュラムのすすめ―

〇「学力向上支援資料」＜平成 28 年６月作成＞･･･学校に配付

（全国学力・学習状況調査を参考に継続的な課題の解決に向けた取組に関する資料）

〇平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果について＜平成 28 年９月作成＞･･･義務教育課 Web 掲載

（全国学力・学習状況調査の成果や課題に関する資料）

補充的な学習の充実

調査結果の分析を行う際には、正誤の確認だけでなく、子どもたちがどのようなところでつまずいているのか、誤答の状況を丁寧に分析し、正答に導くためのコツを子どもにつかませることが重要になります。補充的な学習が単なるドリル学習で終わることのないよう、個に応じた課題の克服につながる指導になるように見直しを図る必要があります。

このたび義務教育課では、補充的な学習の充実に役立ててもらうために、**「課題克服ジャンプアッププリント」を作成・配付**しています。今回配付する「課題克服ジャンプアッププリント」は、「問題」だけではなく、「解答」と「解説」がセットになっています。子どもたちに、正答を出させるだけではなく、正答にたどり着くまでの過程にも目を向けさせるとともに、先生方にはそれぞれの教科の本質的な内容につながるヒントを示すなどの働きかけを求めています。

なお、補充的な学習において一人ひとりの子どもの状況を的確に把握する際には、学力分析支援ツールで出力される個人票の活用が効果的です。

今年度も８か月が終わりました。

各学校においては、**「やるべきことを絞り込み、できることから全校で今すぐ始める」**ということを意識しながら、子どもたちが抱えている課題を全校教職員が共有し、その課題を解決するための具体的な取組を進めていきましょう。子どもたちの実情を踏まえ、必要に応じて学び直しを行うことも大切です。また、コミュニティ・スクールの仕組みを活用して、補充学習を充実させる等の取組も有効です。

すべての子どもたちが、分かる喜び・できる楽しさを実感し、自信をもって新しい学年のスタートを迎えることができるよう、教職員が一丸となって前に進んでいきましょう。